

イトウ釣り

旭川市医師会
大雪病院

おぎま のぶひこ
尾崎 信彦

私の趣味は釣りである。中でもイトウ釣りと夏の溪流のヤマメ釣りが大好きである。

イトウは国内最大級の淡水魚でサケ科の仲間である。15年以上生きて最大2mになるともいわれている。また、乱獲や環境の悪化で北海道の絶滅危惧種に指定されている。

私は、中学の頃までは近所の農業用の貯水池で、よくコイやフナを釣りに行っていました。

高校から大学までは、釣りはほとんどご無沙汰しておりました。大学を卒業して最初に就職した病院のリハビリのスタッフのなかに釣り同好会のようなものがあって、誘われるままに入会し、初めてルアー釣りの道具を買い揃えました。そしてルアーの投げ方を何度も指南され、満を持して猿払方面にイトウ釣りに連れて行かれました。

厳寒の初冬の中、地面を叩くようにルアーを引くと教えられ、何度も何度もルアーを投げてはリールに糸を巻き取ることをしましたが、そんなに簡単には釣れるはずがありませんでした。

道北のオホーツク側は雪が少ないが風が強く、体の芯まで凍りつく感じで、今考えるととても辛く修行僧のようでした。そんな過酷な釣りを10年間続けて、やっと猿払川の上流で34cmのチビイトウをゲットしました。

苦節10年はとても長く感じられましたが、チビイトウでもとてもうれしかったのを覚えています。

それからは嘘のように年に数本は釣り上げるようになりました。

今日は一番釣れたと思ったのが半日で6本釣れ、それもほとんどが80cmと90cm台のイトウで、俺はなんてツイているんだと思いました。

そして私がイトウ釣りの師匠と崇拝している、とあるメーカーのMRさんとの出会いがイトウ釣りの釣り方を大きく変えてくれました。

それからはメーターオーバーのイトウを毎年釣り上げることができるようになりました。

一番の思い出は2016年5月29日に釣り上げた生涯の一尾、113cmのビッグイトウでした。かなり大きなイトウが時折川の浅瀬と深いところを回遊しているのが見えました。そこでヤマメカラーのミノーをキャストし、ゆっくり1巻き2巻きした所で、恐ろしい程の力でルアーが抑え込まれました。さっき見た大物かと思い、全身で針がしっかりと口に刺さるように思い切りアワセを入れました。ただならぬ衝撃

がロッドとラインを伝わり足の先まで全身に響きました。その強烈なアワセを受けてイトウが右へと走った、やはり巨大なイトウだ。ラインがリールから出てゆく、ギーギーとドラッグ音を鳴らしてリールが悲鳴を上げていました。

これ以上テンションが掛かり、糸が切れないようにドラッグを素早く緩め耐えました。今度は左へとイトウが走りました。何度もイトウが右へ左に走ることを繰り返し、約30分位は戦っただろうか、イトウの動きが弱まった。

ここが勝負と糸をゆっくりとリールに巻き取りました。寄せに入り徐々に大きな魚体が岸に近づいて来た。仲間に手伝ってもらい、差し出したネットにゆっくりと近づけたが最後のアガキでイトウが暴れたが、かなり動きが弱くなっていた。

無事ネットイン、勝負あった。さすがハンドメイドの本波ロッドである。

12Kgオーバーのビッグイトウだ。写真を撮ろうにも重たくてうまく持ち上げられなかった。

何とか写真撮影を行い、ビッグイトウをリリースするとゆっくりと深みに泳いでいった。

とても至福の時を過ごさせてもらい、その夜のビールは最高に旨かった。

それからイトウ釣りは回数が徐々に減り、年に1本上げられるかどうかである。

地球温暖化のせいか猿払方面も水温が高いような気がする。

最近では、なかなかイトウ釣りに行けなくなっているが、大好きなイトウ釣りができなくならないように、環境破壊が進まないように祈りたい。また、自身もいつでもイトウ釣りができるように微力ながら努力しようと考えている。



113cm 魚鬼